

令和8年度 学校経営計画

四條畷市立四條畷中学校

校長 河上 弘子

Ⅰ 学校経営方針

●学校教育目標

《心を磨く》強い意志と豊かな心を持ったたくましい生徒の育成

《人に学ぶ》自ら学ぶ意欲と考える力を持った生徒の育成

●育てたい生徒像

しなやかに、たくましく生きる生徒の育成

●努力目標「生きる力の育成」

(1) 心豊かな人間の形成(四條畷市教育振興基本計画 基本方針1)

(2) 基礎・基本の定着(四條畷市教育振興基本計画 基本方針1)

(3) 自己教育力の育成(四條畷市教育振興基本計画 基本方針4)

(4) 個性の伸張及び創造力の育成(四條畷市教育振興基本計画 基本方針2)

(5) 望ましい人間関係の育成(四條畷市教育振興基本計画 基本方針6)

●令和8年度重点目標

「みんな大事 ～『あたりまえ』にいいね!～」

☆学校は安全・安心な場所

①明日も学校に行き学びたいと思う

②クラスに自分の居場所がある

③安心して人と話すことができる

④授業が「わかる」、がんばると「できる」と感じる

⑤クラス・学年の取組みや学校行事クラブ活動が楽しい

⑥あたりまえの日常を大切に生活する

⑦あたりまえのことができていることを認めてもらえる

2 めざす学校像、子ども像、教師像(中期目標)

★めざす学校像	明日も行きたいと思える学校
★めざす子ども像	しなやかに、たくましく生きる生徒
★めざす教師像	温かい声かけ、温かいまなざしのある教師 ～生徒にとって一番身近なロールモデルに～

3 学校の現状（よさと課題）

(1) 子どもたちの実態

学校生活全般において、素直に、積極的に取り組める生徒が多く、学習面でも「わかりたい」、行事に関しても「やってみたい」と前向きな思いを持っている。

ほとんどの生徒が、授業や行事、当番活動や委員会活動などにまじめに取り組んでおり、あたりまえの学校生活をあたりまえに送ることができている。

大人数での活動や人間関係づくりが少し苦手な生徒は、個別対応や柔軟な対応を行うことにより、個に応じた学校生活を過ごすことができている。

(2) 子どもたちを取り巻く環境

①教育環境

2小学校から進学し、JR学研都市線の四条畷駅から忍ヶ丘駅を含む広い校区であり、登下校に30分近く費やす生徒もいる。学校は少し高台に位置し、多くの生徒は坂をのぼって登校してくる。

②地域

全体的に学校教育に関しては協力的な地域である。保護者も（時に代々）卒業生であることも珍しくない。小学校区、それぞれの地域によって大切にしてきたものがあり、それらの交流や共有ができるとうよと考える。

コミュニティスクールの取組みとして、放課後の見守り活動（クラブなど）や、大掃除などが定着してきており、学校にいる教員以外の大人に対して、生徒たちも挨拶や会話をするようになった。

③組織（教職員、PTA、保護者）

【教職員】

子どもに丁寧に寄り添い、繋がろうとしており、とても熱心に日々の指導・支援に取り組んでいる。今年度は、学校統合時に南中より異動してきた教員が本校での異動年限を迎え、大幅に教員が入れ替わった。20代男性教員、40代女性教員数が多くなり、20～30代が約6割を占めている。本校在籍年数が1～3年の教員が3/4を占め、2年めまでの教員が半数を超えるなど、これまでの本校のやり方や文化をさらに丁寧に伝えていく必要がある。各主任や主事、部長などは、いわゆるミドルリーダーが担っており、学校運営はスムーズに進んでいる。

【PTA、保護者】

PTAはとても協力的であり、十分に情報共有・連携ができており、学校運営の大きな支えとなっている。「できる人が、できる時に、できることを」という活動趣旨のもと、スリム化した組織によりPTA活動を行っている。

保護者は、概ね学校教育に熱心で、一定の理解を得ている。子どもから聞かれた情報等で不安に感じられたり、不明に思われたりすれば、まずは学校に連絡をくださることが多い。

4 今年度の達成目標、具体的な方策

目標設定区分Ⅰ『学校経営』

A 今年度の成果目標		達成基準(各種調査、アンケート等)
<p>「みんな大事～『あたりまえ』にいいね!～」</p> <p>☆学校は安全・安心な場所</p> <p>①明日も学校に行きたくて学びたいと思う</p> <p>②クラスに自分の居場所がある</p> <p>③安心して人と話すことができる</p> <p>④授業が「わかる」、がんばると「できる」と感じる</p> <p>⑤クラス・学年の取組みや学校行事クラブ活動が楽しい</p> <p>⑥あたりまえの日常を大切に生活する</p> <p>⑦あたりまえのことができていることを認めてもらっている</p>		<p>学校生活に関するアンケート(生徒・教職員)での肯定的回答</p> <p>A:明日も学校に行きたくて学びたいと思いますか</p> <p>B:クラスや学年のつながりが広がりましたか</p> <p>C:自分の良いところや友達の良いところを見つけられますか</p> <p>D:みんなのために進んで自分の役割を果たせますか</p> <p>E:しんどい時困った時に周囲の仲間に相談できますか</p> <p>F:授業中、安心して発言できていますか</p> <p>G:学校の授業はよくわかりますか</p> <p>H:行事やクラブ活動などに積極的に取り組んでいますか</p> <p>I:「やってみる」「ねばーる」「つながーる」を意識していますか</p> <p>J:先生はあなたの良い所を認めてくれていると思いますか</p>
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
①明日も行きたい学校	A:85%以上 B:85%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の活動の中で小さな楽しみやつながりを増やす ・生徒会・委員会・係活動を活発化し、達成感を感じさせる
②居場所づくり	C:85%以上 D:85%以上 E:80%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・班活動、グループ活動を活発に取り入れ、集団づくりをすすめる ・生徒会・委員会・係活動を通じて、自分の役割を意識させる ・教育支援ルームや通級指導教室等、個に応じた居場所の提供
③心理的安心感	E:80%以上 F:80%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳、人権教育を中心に、全活動で認め合う優しい心を育成 ・教員が人権意識を高く持ち、子どもの発言・行動を見守る ・班やグループ活動を通じて、人とのつながり方を身につけさせる ・特性、背景を理解し、子どもに寄り添った生徒指導を行う
④「わかる」「できる」をめざした授業改善	G:85%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTも活用しながらわかりやすい授業工夫を行う ・非認知能力を育成しながら認知能力も高める工夫をする ・授業のあり方、評価の方法について研鑽を深める
⑤行事やクラブへの積極的な取組み	H:85%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたち主体で、企画・運営させ、達成感、成功体験を増やす ・クラブ活動等を通じて、子どもの活躍の場をつくる
⑥あたりまえの日常	I:75%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や学級活動、委員会・班活動での振り返りを大切にする
⑦承認されている感覚	C:85%以上 J:85%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの様子をしっかりと見とり、的確なタイミングで声かけする ・教師がロールモデルとなり、認め合える集団をつくる

目標設定区分2 『学校組織の運営』

A 今年度の成果目標		達成基準(各種調査、アンケート等)
<p>「みんな大事 ～『あたりまえ』にいいね!～」の実現のために教職員で心がけたいこと</p> <p>①教職員間のコミュニケーション ②情報共有、役割分担を意識した組織対応 ③活発な意見交流や議論によるイメージ共有 ④肯定的な生徒理解、合理的配慮 ⑤教職員が楽しむ姿を見せるロールモデルとなる ⑥教育公務員としての適切なふるまい</p>		<p>学校生活に関するアンケート(教職員)における肯定的回答と会議、面談等で聞き取る意見</p> <p>K:学校の状況や課題に全職員で組織的に取り組んでいるか L:「みんな大事」を意識して取り組んでいるか M:「わかる」「できる」をめざした授業改善に取り組んでいるか N:安心して学べる場を作る活動を意識して取り入れているか O:肯定的な生徒理解で、どうすればうまくいくかという思考か P:会議、面談等での意見</p>
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
①教職員間のコミュニケーション	K:90%以上 L:90%以上 O・P:	<ul style="list-style-type: none"> ・グループウェアなども活用した情報共有 ・ちょっとした時間での生徒情報の共有(ミニケース会議) ・何を大事にして指導にあたるかの定期的な確認・情報共有
②情報共有、役割分担を意識した組織対応	K:90%以上 O・P:	<ul style="list-style-type: none"> ・グループウェアなども活用した情報共有 ・担任だけが抱え込まない学年・学校対応のための情報共有 ・何を大事にして指導にあたるかの定期的な確認・情報共有
③活発な意見交流や議論によるイメージ共有	L:90%以上 O・P:	<ul style="list-style-type: none"> ・担任だけが抱え込まない学年・学校対応のための情報共有 ・何を大事にして指導にあたるかの定期的な確認・情報共有 ・職員会議等を活用したミニ交流タイムの設定
④肯定的な生徒理解、合理的配慮	M:90%以上 N:90%以上 O:	<ul style="list-style-type: none"> ・何を大事にして指導にあたるかの定期的な確認・情報共有 ・職員会議等を活用したミニ研修、交流タイムの設定
⑤教職員が楽しむ姿を見せるロールモデル	L:90%以上 P:	<ul style="list-style-type: none"> ・学級通信や学年集会、HRなどでの教職員の語り ・セルフメンテナンス
⑥教育公務員としての適切なふるまい	P:	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議等での定期的な注意喚起 ・同僚性を活用した相互によるチェック

目標設定区分3 『人の管理・育成』(※業務量管理・健康確保措置実施計画の内容についても)

A 今年度の成果目標		達成基準(各種調査、アンケート等)
①学校文化・風土の継承 ②教員のワークライフバランスの調整 ③次代を担う人材(管理職人材)の育成		教職員アンケートにおける肯定的回答とストレスチェック K: 学校の状況や課題に全職員で組織的に取り組んでいるか Q: 生徒が「明日も行きたい」と思える指導工夫をしているか R: 「働きがい」のスコア 全国平均+3.3 S: コア会議の頻度・校長通信の発行
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
①メンター・メンティ制度	K: 90%以上 Q: 90%以上	・経験年数等により、教員にメンター・メンティを割り振り、ペアを固定化し、疑問や不安に寄り添い、即応できる同僚性を育む ・学校文化や風土をしっかりと継承していく
②「働きがい」を感じられる職場環境	R: 全国平均 +3.3	・大変だけれど働きがいのある職業・職場にするために、取組みの視覚化・言語化を行い、肯定的に評価する
③コア会議	S: 週1回以上	・教頭、首席、指導教諭等による定期的な自己点検(コア会議) ・校長通信により、指導観、学校運営方針等のイメージ合わせ

目標設定区分4 『地域連携と渉外』

A 今年度の成果目標		達成基準(各種調査、アンケート等)
・CS(コミュニティスクール) ①学校ニーズに応じた安定的な活動 ②地域への積極的な発信 ・小中連携 ③教職員交流、9年間を見通した取組み充実		学校教育に関するアンケート(保護者)の肯定的回答と、発信 T: 学校は保護者地域の願いに応えている U: メールや通信によって学年の様子を知ることができる V: 暇中だよりの定期的発行や各会議における発信 W: 児童生徒、教職員の交流
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
①ニーズに応じた安定的な活動	T: 80%以上 U: 80%以上	・CS会議において、学校ニーズと地域の思いをすり合わせる ・地域の方々による定期的な学校への関わり(顔の見える関係)
②地域への積極的な発信	V: 年間10回以上	・暇中だよりの定期的発行や各会議にて、保護者や地域への発信を行う
③小中連携の充実	W: 年2回以上	・小中合同研修、小中連携会議での課題の共有、イメージ合わせ ・9年間を見通した子どもの育成のための役割分担および協働